

【各予防接種の副反応について】

高齢者用肺炎球菌	各所の疼痛、熱感、腫脹、発赤、筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱、注射部位壊死または注射部位潰瘍がみられることがある。重篤症例の発生頻度は、0.0018%である。(令和5年10月1日～令和6年3月31日までの数値。令和6年7月第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より引用)
高齢者インフルエンザ	重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)があらわれることがあり、そのほとんどは接種後30分以内に生じるが、まれに接種後4時間以内に起こることもある。 その他、ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎、脳症、脊髄炎、視神経炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作、急性汎発性発疹性膿疱症の報告がある。 まれに接種直後から数日中に発疹、じんましん、紅斑、掻痒等があらわれることがある。 発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、発赤、腫脹、疼痛を認めることがあるが、通常2～3日中に消失する。 重篤症例の発生頻度は、0.00009%である。(令和5年10月1日～令和6年3月31日までの数値。令和6年7月第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より引用)
新型コロナウイルス	接種後に接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱など様々な症状が確認されているが、ほとんどが軽度または中等度であり、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められてないと判断されている。また、年少者である方が副反応出現率は低いともされている。なお、国内での検討では、若年男性を中心に心筋炎が報告されている。また、国内において重篤な副反応としてアナフィラキシーが報告されており、接種後30分はその場で健康観察をすること並びに接種後数日の間に胸痛、息切れ、ぐったりするなどの症状があった場合は医療機関の受診が必要。
带状疱疹	発熱、発疹、鼻汁、咳嗽、注射部位紅斑・腫脹などがみられる。重大な副反応として、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病がごく稀に(0.1%未満)報告されているが、ワクチンとの因果関係が明らかでない場合も含まれてる。 なお、麻しん含有ワクチンは、ニワトリの胚細胞を用いて製造されており、卵そのものを使っていないため卵アレルギーによるアレルギー反応の心配はほとんどないとされている。 しかし、重度のアレルギー(アナフィラキシー反応の既往のある人など)のある方は、ワクチンに含まれるその他の成分によるアレルギー反応が生ずる可能性もあるので、接種時にかかりつけの医師に相談してください。
RSウイルス	接種部位の腫れ・紅斑、痛み、倦怠感、軽度の発熱や低血圧、吐き気、失神(血管迷走神経反応)などがみられる場合がある。まれにショック、アナフィラキシー様反応(接種後30分以内にあらわれる呼吸困難や全身性の蕁麻疹などを伴う思いアレルギー反応のこと)やけいれんがあらわれることがある。

【参考】予防接種実施者のための予防接種必携 令和6年度(2024)、厚生労働省ホームページ(带状疱疹ワクチン)